

富士通セミコンダクターテクノロジー株式会社 環境報告書 2009



1. ごあいさつ

富士通セミコンダクターテクノロジーは、フラッシュマイコン／フラッシュメモリを主力商品とする前工程製造会社です。2007年に設立されて以来、環境負荷の少ないものづくりをめざした取り組みを行っています。

2007年には、環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001富士通グループ統合認証を取得しました。

今後は、「すべてをグリーンにします」を掲げている富士通グループの一員として、地球温暖化防止、廃棄物削減などの環境負荷低減の取り組みを継続して行っていきます。

この環境報告書を通じて、皆さまに私たちの環境活動や環境情報を提供してまいりますのでよろしくお願いいたします。



富士通セミコンダクターテクノロジー株式会社
代表取締役社長 田畑 晃

2. 富士通セミコンダクターテクノロジーの紹介

当社は、半導体前工程の製造工場としてフラッシュマイコン／フラッシュメモリを中心とした半導体デバイスの製造・開発および販売を行っております。

当社の製品は携帯電話をはじめとする通信機器、パソコン、カーナビゲーション、ホームオーディオなど幅広い分野に用いられています。

名称 : 富士通セミコンダクターテクノロジー株式会社
所在地 : 福島県会津若松市門田町工業団地6番地
操業開始 : 2007年4月
従業員数 : 約540名
敷地面積 : 58,000㎡
事業内容 : 半導体製造(ロジックLSI等)

3. 環境スローガン

■ 理念

弊社は、『地球環境と「ものづくり」の調和』を基本理念とし、半導体集積回路製品の量産工場として企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に配慮するとともに、富士通グループの一員としてグループの環境方針に基づいた環境保全活動を推進し、次世代に美しい自然を残すために、社会の持続可能な発展に貢献します。

■ 行動指針

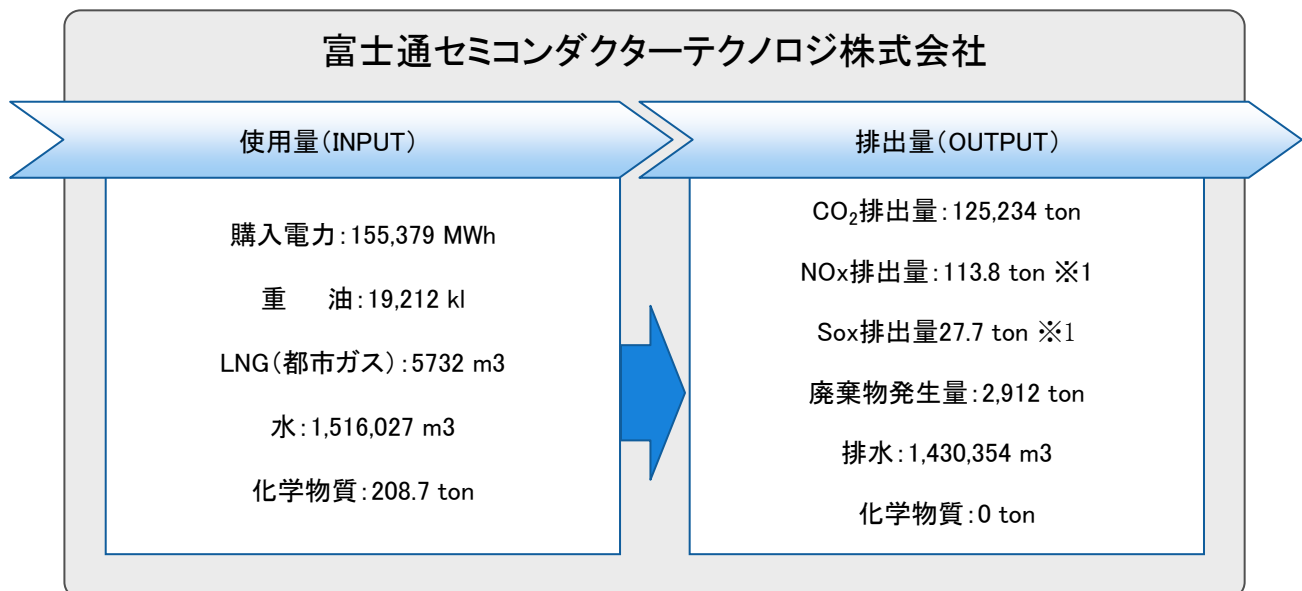
1. 環境マネジメントシステムを継続的に改善するとともに、環境汚染の予防に取り組みます。
2. 環境関連法規、条例、協定及びその他の要求事項等を順守します。
3. 当社の企業活動に伴い環境に影響を与える下記項目を重点テーマとして取り組みます。

■ 行動指針

- (1) 電気・燃料の効率的な使用及び削減。
- (2) 化学物質の適切な使用及び排出量削減。
- (3) 廃棄物の発生量削減。

4. 環境負荷データ

■ 環境負荷と事業活動



【補足】 化学物質の算出方法について

INPUT: 工場、事業所におけるPRTR法の対象とされる化学物質の取扱量。

OUTPUT: PRTR法の対象とされる化学物質の工場の排水口や排気口から排出される濃度を測定し、総排出量または総排気量を乗じて算出、あるいは化学物質の収支量に基づき算出。

なお、当社では、排水・排ガス処理の効果により、排出量は0 tonとなっています。

※1 NO_x, Sox の排出については、ボイラー、CGS(コ・ジェネレーションシステム)からの燃焼排気ガスですが、富士通 マイクロエレクトロニクス(株)会津若松工場様と共用施設のため、同じ排出量としています。

5. 環境への取り組み

■ 活動目標と結果報告

2008年度の環境目標と結果は下記の通りです。全項目目標を達成しています。

活動項目	活動結果	達成状況
エネルギー消費CO ₂ を2005年度実績比1.4%削減する。	CGSの停止、小型貫流ボイラへの変更効果等により12.9%削減	達成
CO ₂ 以外の温室効果ガス(PFC)の排出量を2006年度実績比8.5%削減する。	PFC排出量削減施策の評価実施 生産品種構成変更等により32.8%削減	達成
揮発性有機化合物[VOC]の排出量を2006年度実績+追加5物質のレベルを監視する。	揮発性有機化合物[VOC]の排出量を3ヶ月毎に測定監視実施	達成
廃棄物発生量を2005年度実績比5%削減する。	廃硫酸の有償化等により32.7%削減	達成
地域社会貢献活動を3回以上実施する。	地域社会貢献活動を4回実施	達成
化学物質の使用量削減施策を3件以上実施する。	製造工程における化学物質の使用量削減活動などにより3件の削減施策を実施	達成

■ 省エネルギー対策

原動設備の省エネ運転による削減に加えて、重油使用量を削減するために大型水管ボイラを小型貫流ボイラへの変更等を実施しました。

・主な省エネルギー施策

1. 小型貫流ボイラの導入
2. CGSの停止
3. 低稼働生産設備の停止



貫流ボイラ導入

■ 廃棄物ゼロエミッション(廃棄物量減量化対策)

2008年度は廃硫酸の有償化や廃プラスチックの有償化などにより、前年度より廃棄物発生量を1,353トン削減し、2007年度比で31%削減することができました。なお、第5期環境行動計画目標(2009年度末まで2005年度比5%削減)を達成(-32.7%)しており、今後も活動を継続していきます。

・主な廃棄物の削減施策

1. 廃硫酸の有償化
2. 廃プラスチック類や金属屑の分別による有償化

■ 化学物質の削減

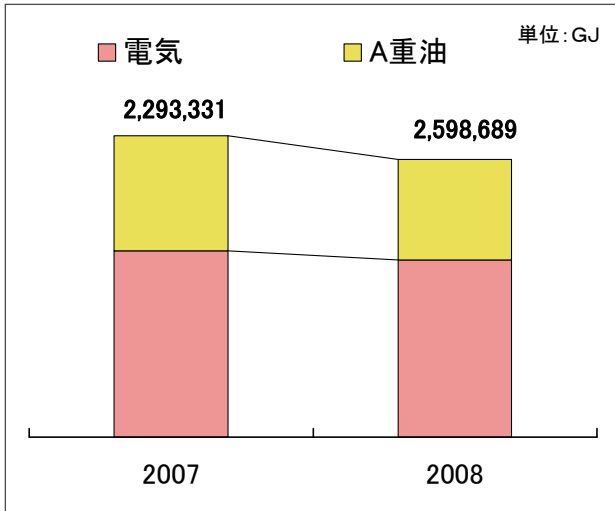
当社では、新しく導入するすべての化学物質について、環境・順法・安全管理面における事前評価を実施し、登録管理する化学物質登録制度を運用し、薬品やガスの含有成分を適正把握し、使用量削減活動を推進しています。

・主な使用量の削減内容

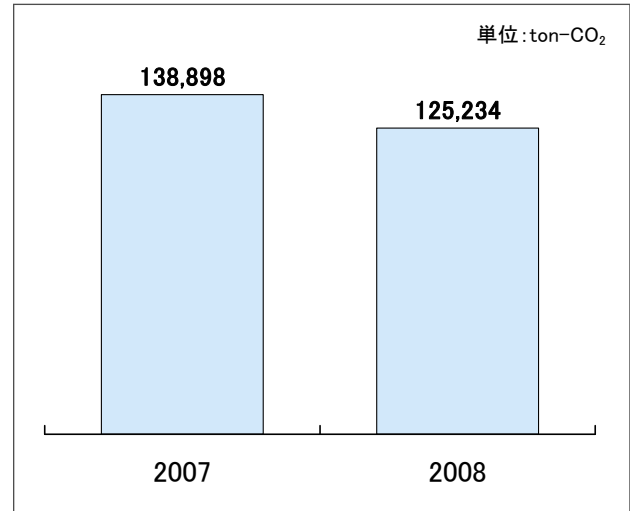
1. 製造の各工程における硫酸の使用量削減

6. 環境負荷データの経年推移

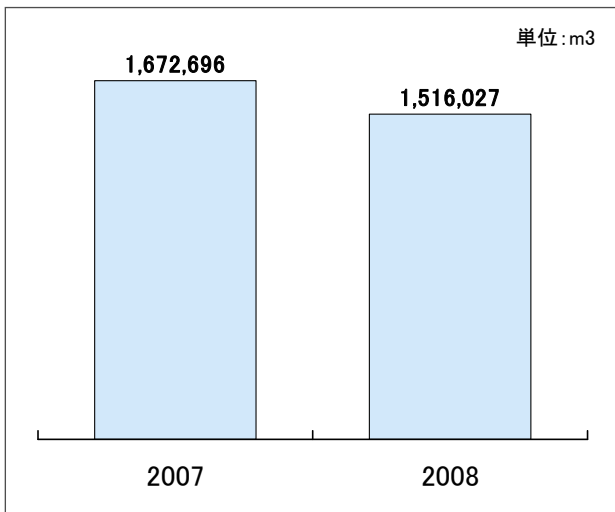
■ エネルギー消費量



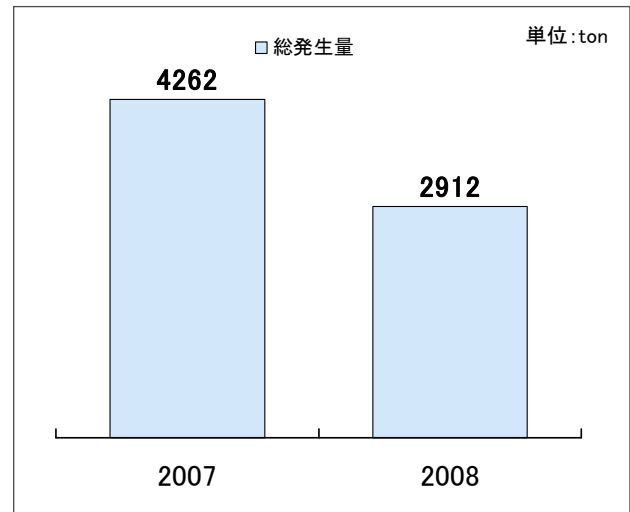
■ CO₂排出量



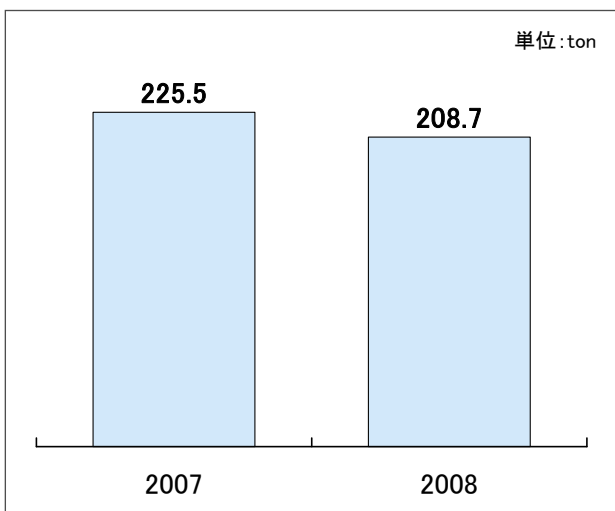
■ 水の使用量



■ 廃棄物



■ 化学物質使用量



【主な増減要因】

- ・A重油&CO₂排出量
CGSの停止,大型水管ボイラから小型貫流ボイラへの変更による使用量削減。
- ・廃棄物
廃硫酸の有償化による削減。
- ・化学物質使用量
硫酸の使用効率改善による削減。

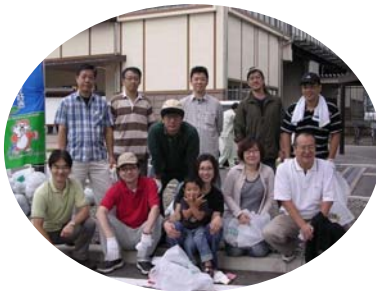
7. 環境社会貢献

■ 社会貢献活動

当社は年間を通じて清掃活動を行っております。2008年度の活動内容としては、門田町工業団地内の清掃をはじめとし、阿賀川河川敷の清掃、クリーンふくしま一斉清掃への参加など、FML会津若松工場や地域との連携を取りながら美化活動を推進しています。



工場周辺清掃



一斉清掃活動



河川敷清掃活動

8. 環境教育・環境啓発活動

■ 社員への環境啓発

社員の環境意識向上を目的に各種教育を実施しています。2008年度は、全社員を対象とした「環境一般教育」では、①FSETの環境活動 ②FSETの環境活動状況 ③環境と安全衛生などの内容を教育として実施しています。

また、福島県より参加要請のあった環境映画上映会「KIZUKI」と、講演会「KIZUKIが世界を変える～地球温暖化と私たちの暮らし～」に多数参加し行政と連携した活動を推進しました。

2009年度は、欧州の環境規制の強化でREACH規則の導入に向け、FMLグループ含有規制化学物質対策活動の説明会を社員向けに実施し、化学物質を通して世界の環境に対する動向を理解すると同時に環境意識の高揚を図っています。



REACH規則説明会

9. 安心・安全な工場への取り組み

■ リスク対策

環境リスク発生の未然防止を目的として、地下の廃液受槽は二重構造としています。また、敷地内の各所に観測井戸を設けて地下水の状況を定期的にモニタリングしています。

■ 土壌・地下水の調査対策

敷地境界線付近と地下排水槽近傍に観測井戸や観視井戸を設けて地下水の汚染がないかを定期的に監視しています。

10. 環境に関わる法規制の順守状況

■ 法令順守

法令、条例等の変更内容および順守状況を定期的に確認しています。2008年においても、法令、条例等に関する違反はありませんでした。

11. 環境会計

2008年度の環境会計実績は、費用5億4,900万円に対し、効果5億1,000万円という結果となりました。効果金額で大きいものは、従来から取組んでいる原動設備の省エネ運転効果です。

2008年度 環境会計実績表(単位:百万円)

項目	範囲	費用	効果
事業エリア内費用・効果	公害防止・地球環境保全・資源循環等	521	507
上、下流費用・効果	廃製品リサイクル、グリーン購入等	0	0
管理活動費用・効果	ISO14001、環境教育、環境広報活動等	28	3
研究開発・ソリューションビジネス費用・効果	製品への環境配慮技術の研究等	0	0
社会活動費用・効果	環境保全団体への寄付、支援等	0	0
環境損傷対応費用・効果	土壌、地下水汚染の修復等	0	0
合計		549	510

12. 環境マネジメントシステム

■ 統合認証

富士通グループでは、2006年3月に富士通および国内連結子会社と海外連結子会社までを含めたグローバル統合の認証を取得しました。

富士通グループWORLD-WIDE統合認証取得年月:2006年3月23日 認証番号:EC98J2005

当社としては、2007年12月に株式会社日本環境認証機構(JACO)の審査の結果、ISO14001:2004「適合」と評価され、富士通グループの会社としてISO14001の認証を受けています。

■ 環境監査

当社では、環境負荷状況・環境保全状況の総合的把握・ISO規格への適合状況を判定するため、毎年内部監査を行っています。

富士通セミコンダクターテクノロジー株式会社

お問い合わせ先

〒965-8506 福島県会津若松市門田町工業団地6番地
TEL:0242-38-1132 FAX:0242-38-1414

発行責任者 田畑 晃
編集責任者 鈴木 資和
発行年月 2009年9月
記載事項対象期間 2008年4月～2009年3月
報告URL:<http://jp.fujitsu.com/group/fset/eco/>

